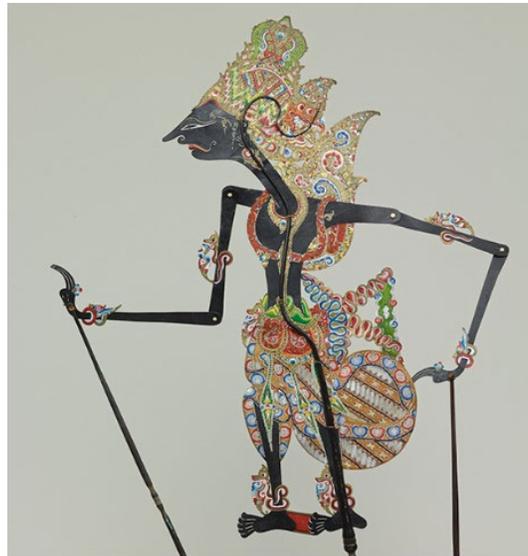




JICA草の根技術協力事業 パートナー型 インドネシア国中部ジャワ州 スラカルタ市「自閉症教育」の人材育成事業

事業期間：2021年3月－2024年5月
一般社団法人こども支援チェルク



◆事業名

インドネシア国中部ジャワ州スラカルタ市「自閉症教育」の人材育成事業

◆プロジェクト目標

スラカルタ市の事業対象機関において
「自閉症教育メソッド」が導入され、実践される



事業地
スラカルタ市



インドネシア州区分地図



中部ジャワ州



ジョグジャカルタ

事業地 スラカルタ市(旧都ソロ)
2021年人口 522,364

スラカルタ市（旧都ソロ）

★1700年代からの宮廷文化発祥の地

ガムラン、ワヤンクリ(影絵)、ジャワ舞踊、バティック発祥

★障害福祉・リハビリテーション発祥の地

Dr. Soerharso (スハルソ) (インドネシア国障害者の父) により

- ・ 1946年 独立戦争による傷病兵対象のリハビリテーションセンター設立
- ・ 1953年 YPAC(インドネシア障害児協会) 第一号
ポリオの後遺症児のリハビリテーション
- ・ 国立理学療法士養成学校第一号
(現在、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の養成学校)

セラピストが他の地域より多い

★前大統領ジョコウィ氏はソロ市在住

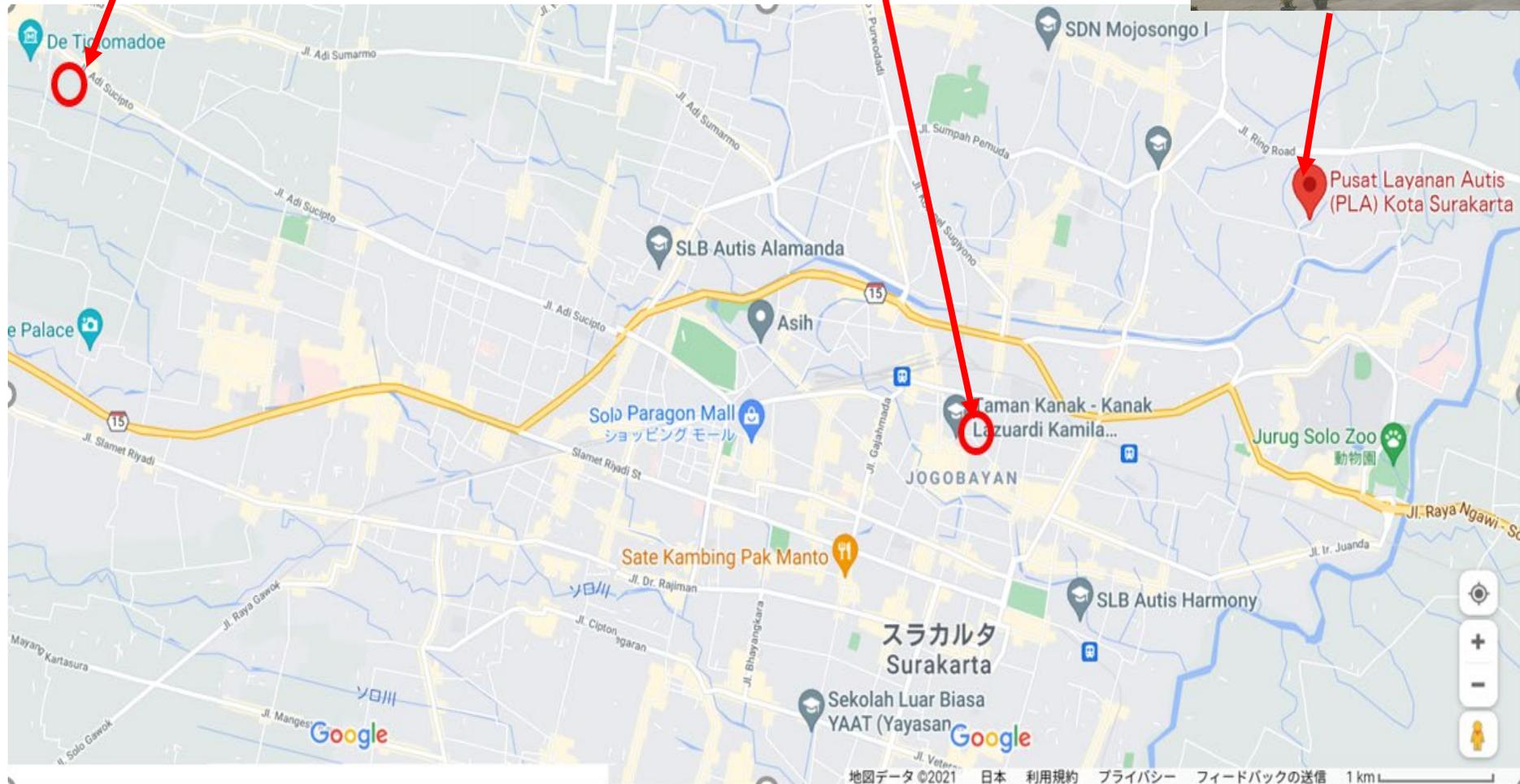


CBR-DT (PPRBM)

スラカルタ市教育局

PLDPI

スラカルタ市立インクルーシブ教育 障害センター



◆上位目標（事業終了数年後）

本事業で養成されたトレーナーが
中部ジャワ州内、近隣県の教師に「自閉症教育」を広めている

◆アウトプット（Output）

1. 「自閉症教育メソッド（視覚構造化）」がスラカルタ市に導入されるために
関係機関の連携が構築される。
2. リーダー5名、モデル教師5名が「自閉症教育メソッド（視覚構造化）」の
理解と教育実践技術、研修技術を身に着ける。
3. 養成されたリーダー、モデル教師が「自閉症教育メソッド（視覚構造
化）」をスラカルタ市に広める。

◆対象研修生：30名

スラカルタ市教育局により任命。(転居、転職、病気により**終了時27名**)

◎研修生の構成

○スラカルタ市立インクルーシブ教育・障害サービスセンター(PLDPI) 計13名

心理士3名、理学療法士2名、作業療法士2名、
行動療法士2名、教育士：2名、言語聴覚士3名

○公立小学校・中学校教師(特別支援教師・カウンセラー) 計5名

○私立中学校：中学校教師 計1名

○私立小学校(特別支援教師、カウンセラー、作業療法士) 計7名

○幼稚園教師 計4名

公立：1名、私立：3名

研修生の年齢層： 20代：15名、30代：8名、40代：5名、50代：2名

研修活動経過 目次

Phase	月日(期間)	場所等	内容	PowerPoint ページ
1	2021. 3~2022. 7 (1年4カ月)	Zoom	日本人講師によるリモート研修など(64時間)	10
2	1 2022. 8及び10	日本人講師訪問 インドネシア	実践活動をとおして学ぶ	14
	2 2022. 10~11	日本人講師訪問 インドネシア	自閉症スペクトラムのある人の得意・不得意を理解する	15
3	1 2022. 10~12	日本人講師訪問 インドネシア	4グループに分かれての研修	16
	2 2022. 10~12	インドネシア 研修生自身が運営	グループの仲間との話し合いと成果	17
4	1 2023.1~9 (9カ月間)	Zoom	自立課題教材の目的と作り方ービデオ教材の活用ー 「TEACCHから学ぶ」日本人講師	18
	2 2023.8~10	日本人講師訪問 インドネシア	視覚化・構造化の実践研修	19
5	2023.10.15~29 (15日間)	日本	本邦研修による学び(見学・体験)	25
6	1 2024.1~4	インドネシア 一部 Zoom	インドネシア研修生が研修講師(10名)へ 一部個別に助言	37
	2 2024.4. 24, 25	インドネシア	最終研修会(セミナー) 日本人当事者の講演とインドネシア保護者の感想	38

日本及びZoom研修

インドネシアでの研修



インドネシア研修生が独自に運営した

Phase I 2021年3月-2022年7月

座学を中心にしたオンライン研修64時間

(1)座学テーマ:

障害とは、障害の社会モデルの考え方、子どもの発達を理解する(運動と感覚の高次化、認知、社会性、言語コミュニケーション、遊び)、アセスメント(太田ステージ)、視覚構造化等々

(2)2021年5月-2022年4月:

研修生の発表28時間。自身が所属する支援機関についてプレゼンを行い、研修生同士が理解し合う。(仲間意識・プレゼンカの向上)

(3)2022年4月23日:

実践研修(4時間):訓練ではなく「多様な子ども達を巻き込む楽しい活動」を通して発達支援を行う活動。先行事業で養成した現地講師を投入。

(4)2022年7月:「障害のある人の社会参加」について知る

オンラインライブ会社訪問(4時間):(株)リゾートトラスト

障害のある人を積極的に雇用している会社。事務作業の様子を日本からライブ配信、ライブで当事者と質疑を実施。 <https://worklear.jp/library/case/61>

https://www.resorttrust.co.jp/corporate/about/social_contribution/pdf/140131_2.pdf

2021年3月20日 事業開始

基調講演 小野次郎氏 明星大学発達支援研究センター客員教授
明星大学診療所所長



Phase I 2021年3月～オンラインでの座学による学び

出来るだけ実践的な研修になるよう工夫

この時期は、コロナ禍にて、同席人数は最大2-3名までという制限がありました。



研修生と研修講師・日本人スタッフとの集合写真



オンライン研修「太田ステージ」(アセスメントツール)の学習場面。検査の実技を行っています。実技の研修は、皆さん楽しそうです。

Phase 2 : 現地渡航開始

実践活動を通して学ぶ 1) 2022年8月&10月 (2022年6月から海外渡航が可能になった)
集団ゲームの活動：絵カードを交換するコミュニケーション
ゲームのルールや達成を視覚的に理解できる経験



Phase 2 自閉症スペクトラムのある人の得意・不得意の背景を実感!

2) 2回目渡航 2022年10月13日-11月7日

(1) 実践研修会: 「スペクトラム」を理解する

・「障害」ではなく「特徴」と考える

・誰もが持っている、自分自身の得意・不得意なこと、その感情への気づき
(例: 手袋をして折り紙・着替えをする)

・「障害」といわれる行動の背景を探る

(例: 感覚過敏による食べ物の好き嫌い・協調運動の不器用さ)

(2) 「セラピーは訓練ではなく、コミュニケーション!」



Phase 3-1 「グループ別研修」2022年10月ー12月

- 1グループ: 視覚的な方法によるコミュニケーションを学ぶー絵カード交換・視覚構造化
- 2グループ: 集団活動を通しての学び(絵本, リミック, 社会性ゲーム, パネルシアター)
- 3グループ: 運動・感覚を使って楽しむ活動
- 4グループ: 社会参加を考える活動ーSocial Story Book

◆成果の報告会: 12月19日 各グループが成果を発表した。

<グループの仲間との話し合いによって、子どもについて新たに気づいたこと>

その1) Sinthaさんの気づき・学び: 「絵」を使って伝えたら、子どもが理解して応じた!
「絵はことばなんだ!」「伝える手段になるんだ!」と気づいた。



Phase 3-2

<グループの仲間との話し合いによって、子どもについて新たに気づいたこと>

その2) リツカさんの気づき・学び:「コミュニケーション」について

私達の言葉は、「表出された「ことば」と、伝えたい意図が同じではないことがあるんだ!」

例えば、「あれなあに?」の本当の意図は、「あれをください!」(要求の意図がある)

または イズラを見つけた時の「あれなあに?」の表出言語の意図は「あなたがやったんだね?だめだよ!」
(別名裏言語:表情や声の調子などを読み取って理解することはASDのある子どもにとっては難しすぎる!)

教師・セラピストは、①自分の意図が明確であることに気付いていること、
②自分の伝え方が、子どもが理解できる表現かどうか、工夫すること。



Phase 4-1 「TEACCHからまなぶ視覚化、構造化」 2023年1月—9月

ビデオ教材の活用

(1) 自閉症の人が求める支援 ①基礎からわかる構造化 ②構造化と再構造化 ③自立のための構造化

(2) 親と教師のための自閉症のこどもの自立課題

①自立課題の選び方 ②自立課題の作り方 ③自立課題の出来上がり

(3) 自立課題のための評価

①評価の仕方、②評価のポイント、③評価と課題設定、④自立のための評価

DVD 親と教師のための
自閉症の人が求める支援 販売中！



自閉症の人が求める支援【3巻セット】

セット定価 10,890円（税込）

[▶ 詳細を見る](#)

注文数：



自閉症の人が求める支援・第1巻 「基本編 基礎からわかる構造化」

定価 4,400円（税込）

注文数：



自閉症の人が求める支援・第2巻 「実技編 構造化と再構造化のしかた」

定価 4,400円（税込）

注文数：



自閉症の人が求める支援・第3巻 「実践編 自立のための構造化」

定価 4,400円（税込）

注文数：

翻訳作業が大変でした！

Phase 4-2 2023年8月26日 視覚化・構造化の実践研修 (4回目の渡航)

8月26日研修一 「視覚化・構造化された教材作りとコンテスト」

仲間と共に、話し合いながらの教材作り・審査・表彰(全員が審査員)



自身が作った教材の目的について話し合う



← 全員が審査員



← 優勝者ユアさん

Phase 4-2

2023年8月28日研修一I (4回目の渡航)

「視覚化、構造化されたモデル教室で活動の体験をしてみる」
体験を通して理解する、「誰にとっても有効な視覚構造化」

視覚構造化の模擬教室



意見交換: モデル教室での活動に参加して気づいたこと、感じたこと、
もっと知りたいことなどを意見交換した。



Phase 4-2 2023年8月29日 (4回目の渡航)

自分達で、視覚構造化の教室を作ろう! 研修生3名で実施

- ・研修生の学校の教室を視覚化、構造化する活動。
- ・棚、机、椅子、教材の配置、適切さを話し合いながら試行錯誤して設置した。

この3名の研修生が作成した視覚構造化された教室をモデルにして、徐々に、他の研修生に広まっていった! 本邦研修前に、「個々の自閉症に合う環境作り」の経験をする! この経験が大切だった。



Phase 5 本邦研修による学び 2023年10月15日—29日(内3名は1週間)

(※パスポート申請から本邦研修開始までの準備期間が約8か月)

参加者12名:

**団長(スラカルタ市教育局長)、スーパーバイザー、現地事業調整員、通訳
研修生8名**

研修生8名の内訳

幼児教育;3名(教師)、カウンセラー1名

私立小学校内クリニック:1名(作業療法士)

公立中学校:1名(カウンセラー)

スラカルタ市立インクルーシブ教育・障害サービスセンター:2名(心理・作業療法士)

Phase 5 本邦研修による学び

<本邦研修での訪問先—選択のねらい>

- ① 幼児期から成人期までの**シームレスな支援システム**の見学
- ② **全ての**子どものための教育の場として、子どもの特徴に応じた教育を受ける場がある
(障害の重さ、機能の困難さに配慮した教育の場)
- ③ セラピー・教育の目的は、障害のある子どもが「標準」に近づく事を目指すのではなく、
「学びを通じた達成感による自信・安心を育むこと」
- ④ 視覚構造化は、上記の目標を目指すための一つのアプローチであり、日本人の教員や支援員の子どもに対するコミュニケーションの態度や、教材・環境調整の工夫点を見学する。
(建物や教材が大切なのではなく、教員・支援をする人の長所・短所も含めて「工夫する考え方と態度」について発見をしてみよう!)
- ⑤ 上記のシステムの発展の背景にある「親の会」の成長。そのための**保護者支援**。

Phase 5 本邦研修による学び <前半一週間の見学場所>

- ① 狛江市立狛江第三小学校 (情緒障害 (自閉症) 特別支援学級、特別支援教室、通常学級)
- ② 狛江市教育委員会 教育長訪問
- ③ 狛江市ひだまりセンター: 乳幼児子育て支援 (保健)、こども発達支援センター (福祉)、
学齢期の児童・生徒の支援 (教育)
- ④ 狛江市立狛江第三中学校 (情緒障害 (自閉症) 特別支援学級、特別支援教室、通常学級)
- ⑤ 東京都立八王子西特別支援学校 (知的障害小中校)
午後: 研修会 (JICA東京) 講演「Neuro Minorityの豊かな世界」綿貫愛子先生 (自閉症当事者・公認心理師)
- ⑥ 梅田ひまわり工房 (成人期生活介護支援施設)
- ⑦ 竹の塚ひまわり園
(元親の会会長に聞く、日本の教育・福祉のシステムの発展と親の会のパワー)
(成人期就労継続支援B型、就労継続支援A型、就労移行、生活介護、就労定着)

Phase 5 本邦研修による学び（後半の見学場所）

⑧東京都立北特別支援学校（肢体不自由小中高校）

⑨東京都立墨田特別支援学校

集団活動で学ぶこと—教材の工夫、関わりの工夫

研修講師：片岡理沙先生・形山育先生

⑩東京都立北療育医療センター（肢体不自由・重症心身障害 乳児期～成人期）

<下記、教室や作業所で実体験をする>

Aチーム3名 ⑪こども発達支援センターうめだあけぼの学園（2日間の体験研修）

Bチーム2名 ⑫東京都立江東特別支援学校（知的障害高等部）半日体験研修

⑬綾瀬なないろ園（就労継続支援B型、生活介護）半日体験研修

⑭株式会社イトーヨーカ堂綾瀬店（特別支援学校卒業生の職場 半日）

⑮ソラアル放課後等サービス（幼児～高校生 半日）

Cチーム 3名 ⑯東京都立中野特別支援学校（知的障害小中高）3名1日体験研修

⑰Gakkenほいくえん砦（3名1日体験研修）

<東京都立八王子西特別支援学校—中学部の生徒との交流会>



狛江市教育委員会表敬訪問 狛江市立狛江第三小学校訪問・見学





狛江市立狛江第三中学校



梅田ひまわり工房（成人期生活介護支援施設）



東京都立北特別支援学校 (肢体不自由小中高校)



東京都立墨田特別支援学校

一実践研修「集団活動で学ぶこと・教材の工夫、関わりの工夫」



Phase 5 帰国後の本邦研修報告会

- ・本邦研修中、10月28日、日本滞在中にJICA東京で報告会を実施
- ・11月4日—12月4日まで**全実施回数13回実施。総参加者数：514名**
- ・11月18日 スラカルタ市教育局主催 参加者：特別支援教師70名
研修生4名が本邦研修とこれまで学んだ「視覚構造化」について研修を行った。2024年7月からスラカルタ市内全校がインクルーシブ学校になる予定

※「スラカルタ市での特別支援の教室の整備計画」(38ページ)

教育局では、公立中学校に特別支援の教室を整備計画を準備中であつた。本邦研修での見学は有効で、研修生が所属する市立第22中学校に設置することが帰国後決定された。責任者は、本事業の研修生Titinさん。(Dian局長とTitinさんが、狛江市立第3狛江中学校で熱心に見学し、校長に質問をしていた様子が印象的である。) ※予定されている教室の画像





大学の心理学・特別支援の先生、ワールドバンクのメンバーを招待した報告会
保護者を巻き込んだ報告会

Phase6-2 2024年1月-4月ー10名の研修講師(トレーナー)の育成

最終研修会で研修講師として 「自閉症の理解者を増やす、視覚構造化の実践を広める」

「自閉症理解の質問紙」調査の実施。研修講師となる10名の個別的な支援

1) 1月15日・2月24日:8時間 10名を対象に説明会を行う。

其々の研修講師に、個別的に助言をする。

2) 3名の希望者の意向に応じ、1対1のオンライン研修・OJTを行う

①スラカタ市立PLDPI心理士:Sinthaさん:「Informal Assessment 9回(18時間)」

②私立小学校作業療法士:Endangさん: 10回(24時間)

PECSの目的・使い方・子どもに応じた修正の仕方・小集団活動について

③私立幼稚園教員:Vivinさん:ASDのある子どもとのかかわり方 4回(8時間)

④PLDPI Sinthaさんに、職場内で2名の研修生にスーパーバイズを依頼

3) 最終研修会、自閉症理解セミナー(4月24日・25日)の研修講師の養成

①OJTを受けたSinthaさんが同僚2名に、研修のポイントについて助言した。

共に刺激しながら学ぶ関係

- ・「視覚構造化とは」担当者：Intanさん(心理士)
- ・「視覚構造化の再構造化とは」：Tohaさん(作業療法士)

②幼稚園での発達支援：Vivinさんは、Willyさんとともに集団活動、視覚構造化の教材・環境の説明を行うための準備を行った。(グループ学習の成果)

③集団活動の実践に挑戦したEndangさん—職場の仲間と共に活動を振り返る—

- ・ビデオを見ながらの大人・子どものコミュニケーション行動分析は有効であった。
- ・「大人の行動をどう子どもが受け取ったか」について話し合う。
- ・「大人の意図通りに子どもが行動しない時は、大人の意図・行動の見直しをする時」
- ・「活動がうまくいかない時は、教材の見直しや大人の行動の見直しが必要である」出来ないことを子どものせいにはしない事。

これらのことを、聴講者にしっかりと伝えてくれた。

心理士Intanさんが作成した教材紹介用の動画



→クリックすると研修生が作成した動画教材にとびます

Phase 6-2 2024年1月～4月：10名の研修講師(トレーナー)の育成

養成された研修講師による講演

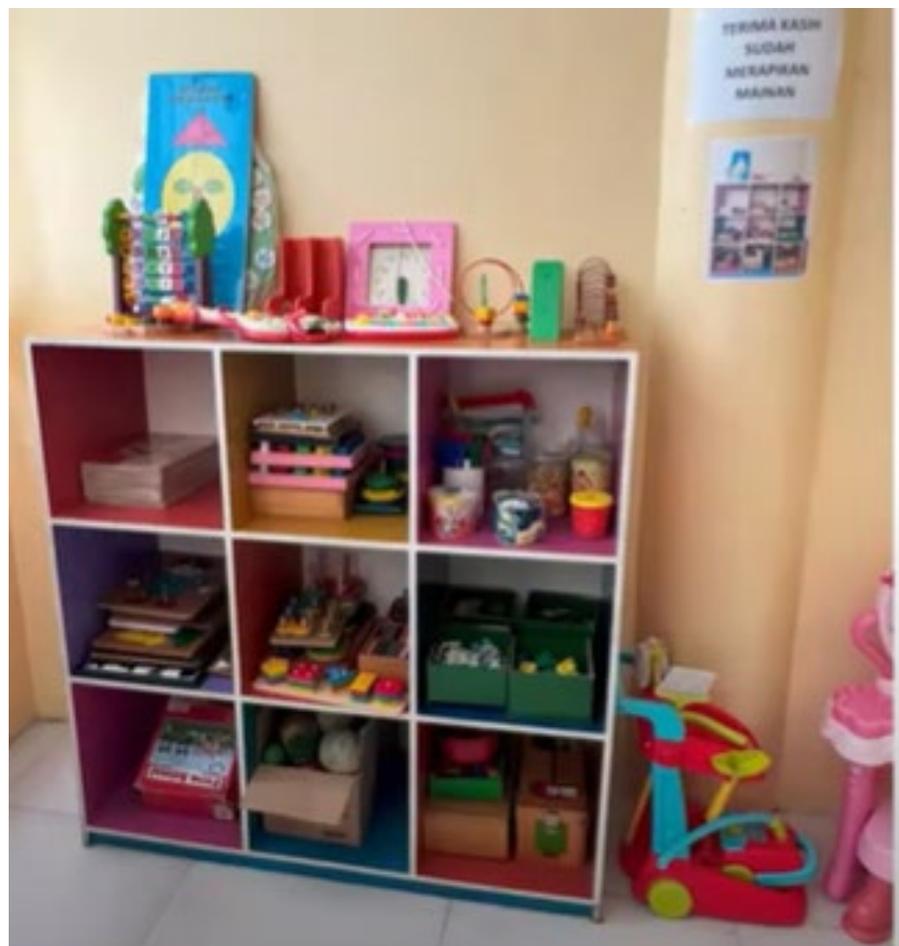
- 1) 視覚構造化について : 心理士 Intanさん(PLDPI心理士)
- 2) 視覚構造化の再構造化: 作業療法士Tohaさん(PLDPI作業療法士)
- 3) 「自立課題」を作るためのアセスメントーSinthaさん(PLDPI心理士)
- 4) 自立課題の教材の工夫: 特別支援教師 Yuaさん(市立小学校)
- 5) 社会参加とはーSocial Story bookー(スラカルタ市立中学校)
 - ①Titinさん(スクールカウンセラー)
 - ②Foniさん: 教員
- 6) 小集団活動の実践ー作業療法士Endangさん(私立小学校内クリニック)
- 7) 絵本の活用について スラカルタ市立幼稚園教員: Rinaさん
- 8) 幼稚園での視覚構造化環境・集団活動の実践報告
(Vivinさん: 幼稚園教員、Willyさん: 幼稚園教員)
- 9) 保護者支援について Rizkaさん(私立幼稚園カウンセラー)



事業の成果

1. 職員の教材庫の整理のために「視覚構造化を導入」

自閉症のある人のためだけでなく、全ての人にとっても助かる方法

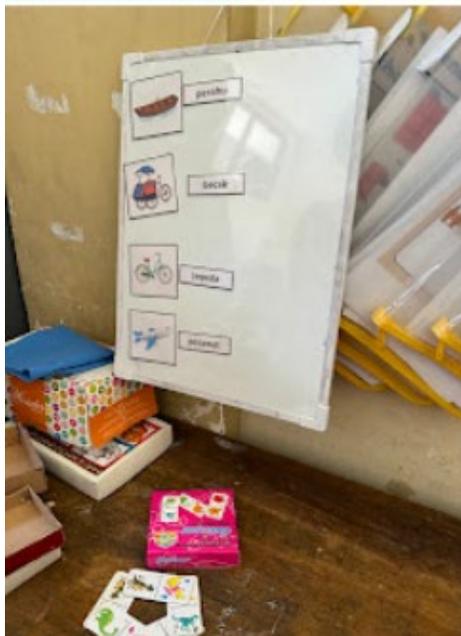


スタッフのみなさんへ
教材を片付けてくれて
ありがとう

職員が教材を片付けず床に置きっぱなし……。悩んでいた作業療法士がこのコーナーを作成しました！



子ども達は整理整頓された環境が大好き！
何をどれだけやると達成できるかが見てわかる



この窓の飾りは綺麗だけれど、子どもにとっては刺激的なので集中できないかも。
窓全体に黒い紙を貼るといいよ！
By 綿貫先生



幼稚園の教員が作成しました。整理された環境を子どもが好むことを実感しました。教材は、丁寧に作成されていました。研修講師の助言が良く活かされおり、感動しました。

最終研修会参加者の理解度 2024年4月25日

自閉症の理解に関する質問紙

会場参加者34名対象（オンライン36名）

1. 質問紙:ASDの子供たちや人々と良好な関係を築くためのコミュニケーション方法について
子どもに適した視覚的な構成方法を使用してコミュニケーションを図ります。32/34
2. 自閉症の子供/人が快適に感じる場所
子どもが、光、音、その他の刺激に過敏な場合は、照明器具やカーテンなどが子どもに適しているか環境調整をしましょう。33/34
3. 視覚的な構造化に関する正しい記述。
その子供の特性や強みに応じて、絵や文字、ボディランゲージなどを使ってみます。 33/34

人材育成についての好事例

「グループ活動の成果報告」—研修生が気づいたこと—

- ・幼稚園：「パネルシアターなどの**視覚的な教材**を使うと、ASDのある子どもが興味を持って集団活動に参加することが分かった。」
また、視覚的な工夫をすることで、個別で学ぶことも集団で学ぶことも楽しめることがわかってきた。(これまでは、「障害のある子どもは一對一のセラピーで障害を治す」という考え方が中心だった。)
- ・PLDPIスラカタ市立障害サービスセンター心理士：
絵カードを作成して提示してみた。
すると、子どもの反応から「絵の意味を理解している」ことが分かった。
「あー!! 絵はことばになるのだ」と実感したとの感想。
(教師・セラピストの成長は、気づきの喜び (Awareness) の経験が鍵)

事業終了後の学びの場

1. PLDPIでは、Sinthaさんを中心に、勉強会の場ができている
2. Endangさんの職場：定期的に職場の仲間と、勉強会を行っている
3. Vivinさん（幼稚園）の職場は、幼稚園全体で、視覚構造化の環境作り、他の幼稚園や研修生も巻き込んで、勉強の場を作っている。
4. Widyaさん（私立小学校）：職員と定期的に勉強会をして、教材作り、環境調整を工夫している。
5. Silaturahmi（シラトラミ・友情の会）SNSで、お互いに連絡を取り合う予定。

これらの動きが、職場内外の研修に参加しなかった職員に広がり、「子どもに合わせよう」という気風が生まれていくと期待している。



2024年4月24日・25日 綿貫愛子先生講演

(スペクトラムの当事者・公認心理士)

- 1) Neuro Minorityの豊かな世界
- 2) 自閉症のある人の特徴・学習スタイルを理解する
- 3) パニックとは何か？共感的な対応とは？

最後に、綿貫先生の講演後に届いた保護者からのメッセージを紹介する。

「綿貫先生、心より感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

私はASDの男の子の母です。

今、彼は十代です。今回は先生からたくさんのことを学ぶことができて本当に感謝しています。

私は、私の息子の行動を普通に変えたいと思っていたのだとわかりました。

息子が人前で飛び跳ねたり、バタバタする行動を見せたときは恥ずかしかったのです。ですから、そのたびに息子を叱責していました。これらすべてが彼を悲しませていたことに、今日、気が付きました。

彼は私が彼に対して失望していることを知っており、それが彼を悲しませていることを知っています。このことに私は気づきました。そのとき、涙があふれてきました。

今後、私が彼により良くできることを願っています。私は彼を大いに尊重し、彼が彼の独特のニーズに応えられるようにしたいと思っています。

他の人が彼をどう思うかを気にするよりも、彼に対する私の敬意がもっと大きくなることを願っています。

彼と多くのASDの人々を擁護していただき、本当にありがとうございます。

あなたは彼らの気持ちを代弁し、私たちに彼らのことを多く理解させてくれました。」

どうもありがとうございました!